国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2020年３月５日号
第188号
毎月２回５日・20日発行

発行所
東京都千代田区霞ヶ関２の１の３　国土交通労働組合
電話(03)3580-4244　ＦＡＸ(03)3593-0359
ＵＲＬ：http://kokkoroso.or.jp/
発行者：安藤　高弘
１部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

2020年３月５日　国交労組　第188号（通巻1344号）　昭和37年12月３日　第三種郵便物認可

日常活動を強化し組織拡大につなげ
新規採用者の100%加入を実現しよう

４月に新規採用者が新たに多くの職場に配属されます。私たちの職場は定員合理化などから、様々な問題を抱え、きびしい状況におかれていますが、職場環境を改善するためには、国土交通労組のなかまを増やし、要求を訴えていく必要があります。そのためにも職場に労働組合があることを示し、加入をより多くよびかけなかまに迎え入れていくことが重要です。楽しい交流や学習とともに、「なかまを増やすなかま」づくりを行い、積極的に未加入者に声をかけ、組織拡大をすすめていきましょう。

国土交通労組は職場改善にとりくんでいる

新規採用者として職場に配属される方は、新しい生活や仕事に期待だけでなく緊張しているはずです。これから仕事もがんばろうというなか、不慣れな環境でどうしたらいいのか悩みながら業務を遂行していくことになります。新規採用者が身近に配属されたなら、ぜひ職場のなかまとして、そして労働組合のなかまとして、何か困っていることはないか、はじめての仕事はどうか、疑問に思うことはないかなどをきっかけに話しかけましょう。国土交通労組を知ってもらうため会話をするにも、まずは関係をつくることが重要です。声をかける際には年齢が近かったり、直属の先輩後輩の関係だったりすれば声をかけられる方にとっても身近に感じてもらえます。

もし、部署が離れてしまった場合にも、一つの職場のなかまとしてできる限り声をかけ、職場に労働組合があること、国土交通労組は職場改善のためにとりくんでいることをしっかりアピールしましょう。その際には、地域や全国の交流会など、様々なとりくみが行われていることを伝えることも重要です。機関紙を片手に、いまの職場状況と国土交通労組のとりくみを説明すれば理解してもらえるのではないでしょうか。

会話のなかで、加入を実現できれば一番うれしいことですが、もしその場で決まらなくとも、継続して声をかけるとともに、会話の最後には「なにか困ったことがあったら、気兼ねなく相談して」と、職場に相談できる場所があることをしっかりと認識してもらうことが重要です。

労働組合の必要性、楽しさも伝えよう

新規採用者にしっかりと労働組合のとりくみを説明しようにも、職場環境の改善から国民生活の底上げなど、幅広い内容を一、二回の説明で理解してもらうことは難しいものです。そのためにも、労働組合を知ってもらう機会として、交流会などみんなで集まり楽しくとりくめることを企画することが必要です。新規採用者は職場に知り合いも少ないため、空き時間に一人座っている、ということがあるかもしれません。また青年自身、様々な交流を求めていたり、社会情勢に疑問を持っていたりするため、好奇心をくすぐるようなイベントを積極的に打ち出していくことが重要です。

しかし、打ち出すだけでは一人での参加に躊躇したり、忙しい職場環境では、多くの参加を望むことはできません。積極的に参加の募集、宣伝を行うとともに開催にあたっては時期をずらし複数回開催することで、参加できるタイミングを増やすことも必要です。また普段の生活のなかでも、なかま同士で参加の声をかけあえるような環境もつくることが重要です。

交流会については、必ずしも大規模でなくて構いません。昼休みのランチタイムでご飯を食べつつ、個人の悩みや趣味の交流などを行うような小規模のものでも十分に興味を惹くものとなります。一度だけの開催ではなく、週一回とか継続してとりくむことで、労働組合が特別なものではなく、より身近に感じることにつながります。

組織拡大を旺盛にとりくもう

私たち国土交通労組は、職場の環境を良くする運動をしていることを示し、しっかりと導くためにも、個々に説明することが重要ですが、役員だけの行動にしないこともポイントです。同じ内容でも、むしろ世代が近く、役員でない人の言葉が心に響くかもしれません。そのため、あらかじめ分会で話し合い、特に加入して欲しいという声かけは担当者を決めておいたほうがよいでしょう。

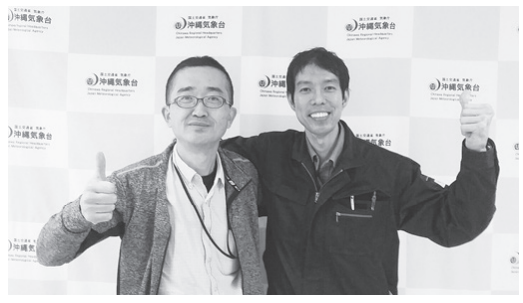
私たちの声に耳を傾けてもらうためにも、日々の生活のなかで信頼関係を築くことが重要です。様々なとりくみを組み合わせて、一人でも多くのなかまを増やしていきましょう。

全国のなかまと交流し、なかまを増やそう

なかまを増やすなかま宣言 ①

今号より、「なかまを増やすなかま宣言」と題し、各支部から組織拡大への意気込みや目標を語って頂き、みんなでなかまを増やす意識を育み、各支部・分会で組織拡大の機運を高め、とりくみをすすめていきます

国土交通労組に加入することは「情報優位性」を享受できることだと思っています。加入呼び掛けにも及び腰になりがちな人見知り故、組合ならではの独自情報を分会員へ積極的に提供することで「なかまを増やすなかま」のモチベーションを向上させる裏方として微力ながら組織拡大に役立てればと思っています。労働組合の原点は「1人の100歩より100人の1歩」です。ともに奮闘していきましょう。



第９回沖縄気象支部委員会で宣言する
宮古島分会書記長今野さん（左）と
支部書記次長伊波さん（右）

明日へ

新型肺炎が世界的に蔓延している。G20財務相・中央銀行総裁会議は共同声明で政策を総動員して対応することを明記した。景気減速やインバウンドをはじめとした観光の低迷が心配されるが、生命と健康を守ることが第一だ。一方で、この危機を緊急事態に関連付けて憲法改正の実験台にしようという声が、与党議員から上がった。国民の不安に付け込んだ発言であり、許しがたい▼政府は緊急時、すぐ対策会議というものを開く。しかし、一部の大臣が講演会行事や私事に参加して不参加、最高責任者である首相も数分しか出席していないなど、危機意識が感じられない。この間政府は、経済や外交などで成果がなくても「やっている風」を装ってきたが、今回も同様だ▼今回、現場で対応にあたった職員で感染してしまった方がいる。政府の無策が原因であるとすれば、彼らは被害者だ。私たち現場の職員が、政治家のように「やっている風」ではなく、国民に対して責任をもって「やり遂げる」ためにも、体制の拡充と政治による行政への介入阻止が必要だ。今春闘では、そのことも念頭にたたかおう。（ＹＫ）